

令和元年度 第2回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和元年10月24日(木) 午後3時から午後5時まで
- 2 会 場 第二本庁舎31階 特別会議室21
- 3 出席者 宇田委員(会長)、増田委員(副会長)、伊東学長特別補佐・教授(佐々木委員代理)、森山委員、ト部委員、吉川委員、後藤委員、安間委員、茅原委員、杉本委員、堀内委員、石田委員

4 議事内容

(1) 「中堅・ベテラン教員の育成について」

- ・ 主任教諭には、「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」(以下、「指標」と表記。)に示された資質・能力をもてるよう、管理職は指導を行ったり、学校運営の役目を与えたりしている。職層に応じた役割を果たす主任教諭に期待をしている。
- ・ 学校における若手の育成には力を入れており、そこで育成された教諭が自ら主任教諭選考受検を希望するようになってきた。主任教諭に対するOJTは十分とは言えない状況があるが、同様にキャリアを積み、自ら主幹教諭選考を受検してほしいと考える。
- ・ 教職大学院において研究を行う主任教諭には、主幹教諭や管理職等になったときに役立つ視点(コーチングやラインケア等)をもたせたいと考える。また、ミドルリーダーを中心に学校改善に関する研究を行うものについては、学校経営方針のもとに行われることを踏まえるよう指導している。主任教諭には、組織における役割について意識をさせたい。
- ・ 学校における主幹教諭の配置人数が決まっていることから、管理職は、人事や分掌配置に工夫をしている。
- ・ 授業研究や授業改善の模擬授業等の若手教員対象の研修において、経験や幅広い知見をもつ指導教諭等のベテラン教員に指導してもらうのは、非常に有効だと考える。
- ・ 教諭や主任教諭は、様々なことを経験し、様々な場所で経験を積むことが大切だと考える。主幹教諭については、業務を組織的に割り振るスキルを身に付けておくことで、管理職の基本を押さえることができる。
- ・ 指標における教員の各キャリアステージの指導力を伸ばすためには、OJTが欠かせない。資質・能力の向上を図るため、免許更新講習会等で大学を活用するとよい。
- ・ 指標について、養護教諭の枠が必要だと考える。

(2) 「東京都教職課程ハンドブック」及び「東京都教員研修計画」の次年度版について

- ・ 「東京都教職課程ハンドブック」(以下、「ハンドブック」と表記。)は、大学の教職課程に在学する1年生に配付している。今年度版は、内容が精査され、より学生が理解しやすくなった。併せて、教員採用選考を受検する頃には人事部発行の「東京の先生になろう」を紹介する等、学生の経験や用途に合わせて活用することができる。
- ・ 教職課程においては、大学に入った時には教員を目指しているが、2～3年目に民間企業に目を向け始め、最終的に企業に就職する学生が増えている。これは、教職よりも早い時期に就職が決まる企業に学生の心が動く状況があるからだと考え。そのため、教職の魅力を広く伝えていけるハンドブックを更新し続けることが必要だ。
- ・ 表記や具体的な内容については、毎年検討し、時代の要求に応じていく。